

令和2年10月

和歌山県の財政状況

市場公募債 I R 資料



Wakayama Prefecture

- 1. 和歌山県の概要**
- 2. これからの和歌山県**
- 3. 和歌山県の財政状況**
- 4. 市場公募債発行計画**

和歌山県の概要

1

和歌山県の概要



写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟



(和歌山県の
位置図)

面積

4,725km²

人口 ※人口推計（2019年10月1日）

925千人

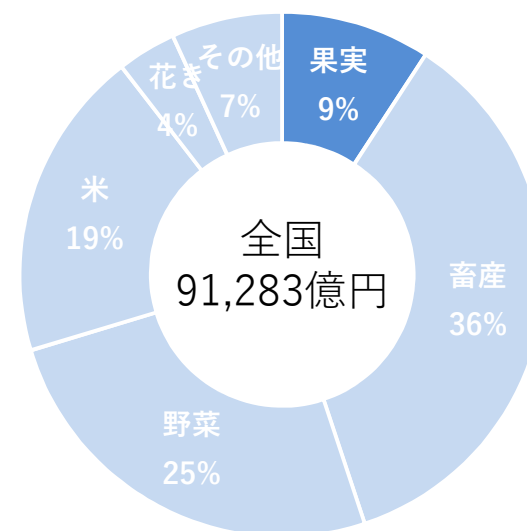
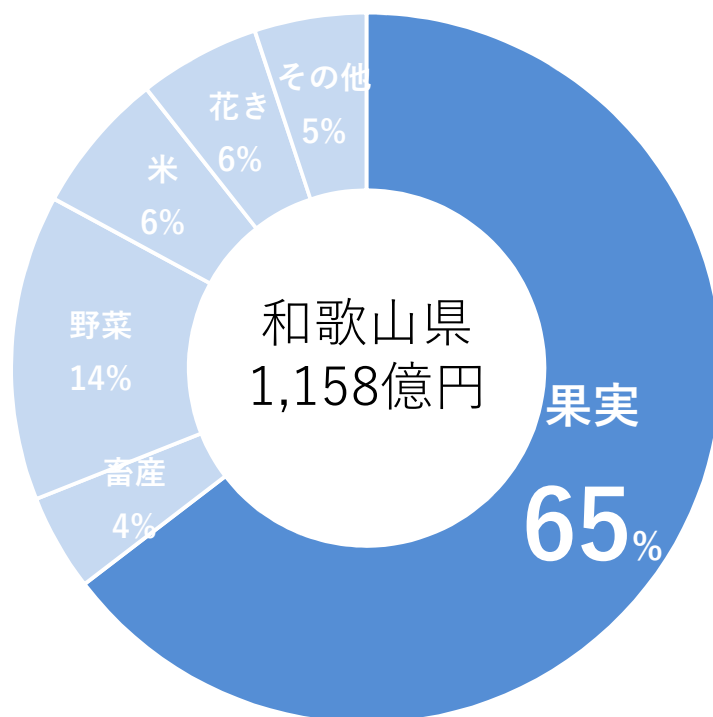
県内総生産(名目) ※H28県民経済計算

36,765億円

和歌山県の魅力①～果樹王国わかやま～

- 本県では、恵まれた自然条件を活かした農林水産業が盛んです。
- 農業においては、果実の構成比が農業産出額の65%を占めており、全国に比べて特異な構成となっています。
- このため、和歌山県は「果樹王国」とも言われています。

農業産出額



※H30生産農業所得統計

果樹生産量の全国シェア 以下は全て**全国第1位**

みかん

20.1% (155,600 t)

※H30農林水産統計

はっさく

73.7% (24,877 t)

※H29特産果樹生産動態等調査

うめ

65.1% (73,200 t)

※H30農林水産統計

さんしょう

64.2% (473 t)

※H29特産果樹生産動態等調査

かき

18.8% (39,200 t)

※H30農林水産統計

いちじく

17.6% (2,278 t)

※H29特産果樹生産動態等調査

和歌山県の魅力②～豊富な観光資源～

- 和歌山県は、恵まれた風土を活かした観光資源が豊富です。
- 自然、文化、食など、それぞれのエリアの特性に応じた魅力があります。

和歌山市エリア



徳川御三家の一つ、紀州藩の居城・和歌山城をはじめ史跡多い町エリア、万葉集に謳われた景勝地、釣りや海水浴で賑わう海エリアでは海の幸も楽しめます。

紀中エリア



豊かな漁場と美しい海岸。そして、深い山あいの見事な景色。海と山の国・和歌山を象徴するエリア。食べ物も、みかん、醤油、クエ、梅干しと和歌山の特産物が揃います。

白浜・串本エリア



「白浜」は関西を代表する観光地。アドベンチャーワールド、円月島や三段壁などの景勝地、そして伊勢エビやクエなど豊富な海の幸。本州最南端の町・串本に向かって南下すれば、壮大なリアス式の海岸美を堪能できます。

高野山エリア



世界遺産・高野山は半径1キロ半に寺院や史跡など見所が凝縮した山上の宗教都市。厳かな雰囲気と素晴らしい自然を満喫できます。ふもとの町から高野山までは、参詣道・高野山町石道が続きます。

熊野エリア



巡礼の道・熊野古道の中心、世界遺産・熊野三山が鎮座する熊野エリア。付近には豊富な温泉源があり、熊野に参詣する人々を癒してくれます。



写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

和歌山県の魅力②～豊富な観光資源～

観光プロモーション



メディアによる高評価

- 国内最大級の外国人向け情報サイト「ガイジンポット (Gaijin Pot)」

2020年外国人が訪れるべき日本の観光地ランキング 熊野地方が**第1位**

- 旅して日本プロジェクト実行委員会「温泉総選挙2019（部門別年間ランキング）」

“歴史・文化部門” 南紀勝浦温泉が**第1位**

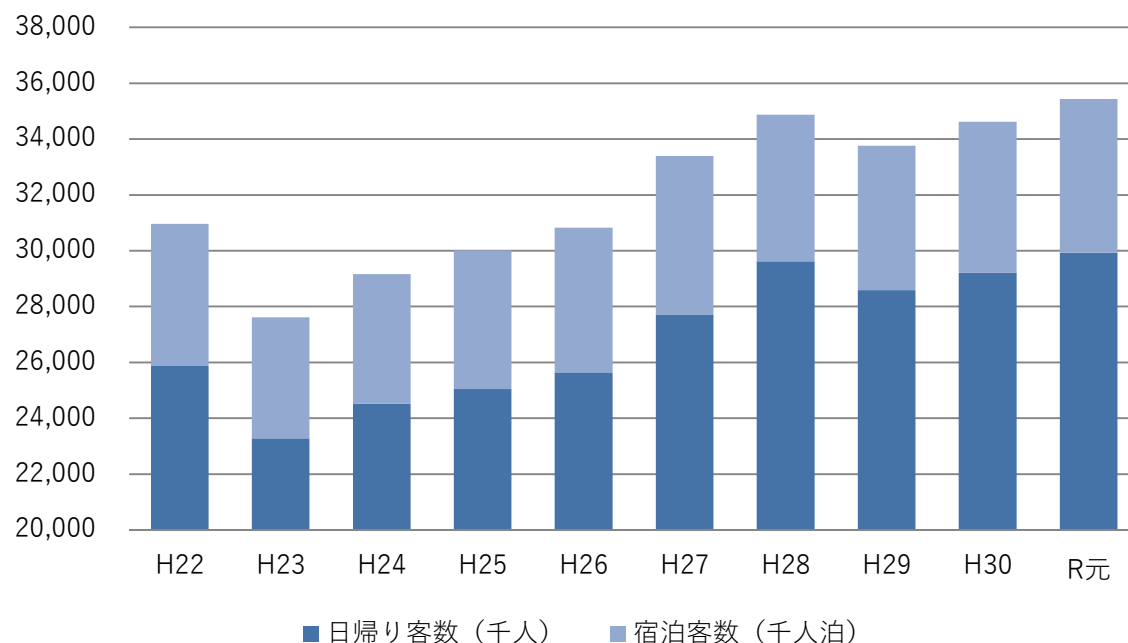
2019年

和歌山県の魅力②～豊富な観光資源～

- 令和元年は、観光入込客総数・日帰り客数・宿泊客数とも前年より増加しました。
- 観光入込客数・日帰り客数は史上最高を記録した平成28年をそれぞれ上回りました。

観光客の推移

令和元年は**史上最高**を更新



令和元年観光客動態調査

観光入込客総数

約 35,433 千人

日帰り客数

約 29,931 千人

宿泊客数

約 5,502 千人泊

- 新型コロナウイルス感染症を巡る状況から、令和2年以降は観光客数の減少が見込まれるものの、大々的なプロモーションを展開するなど需要を取り戻すための取組を進めていきます。

大齋原の桜と天の川（おおゆのはらのさくらとあまのがわ）

熊野本宮大社の旧社地・大齋原（おおゆのはら）。春には、日本一の大鳥居を桜が彩ります。その上を流れるのは天の川。1年のうち、わずか数日の共演です。



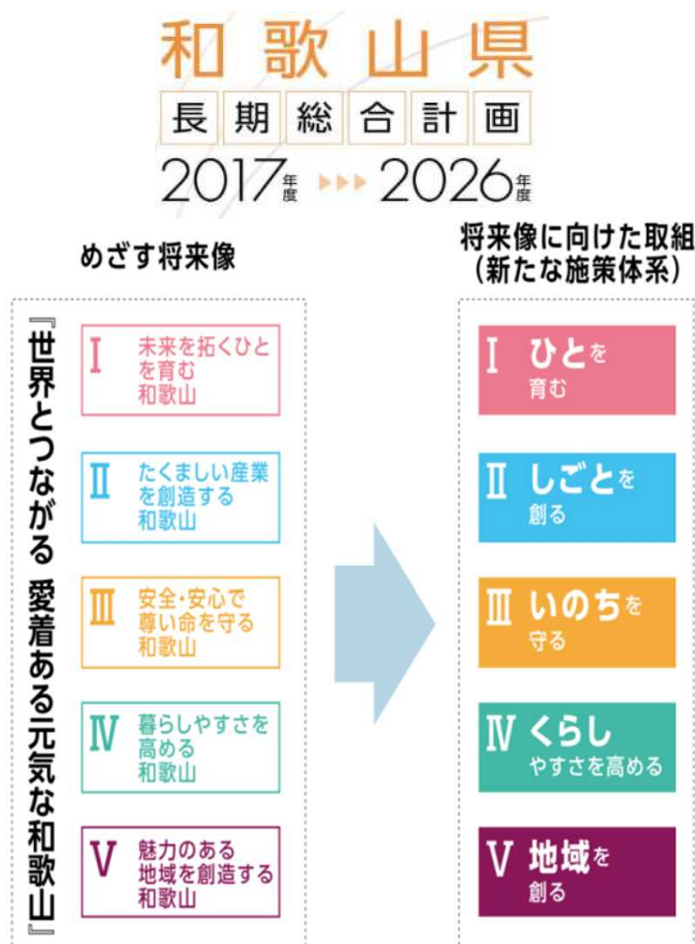
写真提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

これからの和歌山県

2

和歌山の将来像

- 本県は、2017年に、10年後の未来を展望しためざす将来像と、その実現に向けて取り組む基本的な方向を定めた「和歌山県長期総合計画」を策定しました。
- 本計画がめざす将来像とし、ひと、しごと、いのち、くらし、地域の5つの施策体系で将来像に向けた取組を進めています。



未来を拓くひとを育む和歌山

子育て施策をより一層充実することで、県民みんなが子どもを産み育てやすいと感じ、子どもたちが将来の夢や目標の実現に必要な資質・能力を身につけるとともに、県民みんながそれぞれのライフスタイルに応じて楽しく元気に活躍し、故郷への愛着と誇りをもち続けている和歌山をめざします。



たくましい産業を創造する和歌山

多様でバランスのとれた産業構造を築き上げ、外的経済ショックにもしなやかに適応できる力を備え、各産業が積極的に海外へ進出するとともに、生産性・収益性を高めることで雇用を生みだし、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む新たな人の流れを創りだす和歌山をめざします。



安全・安心で、尊い命を守る和歌山

地震・津波・風水害などの災害による「犠牲者ゼロ」をめざした防災対策を一層充実するとともに、住み慣れた地域で質の高い医療サービスが受けられ、犯罪や交通事故の少ない環境を整備することで、安心して暮らせる和歌山をめざします。



暮らしやすさを高める和歌山

良好な生活環境を保ち、3R（リデュース・リユース・リサイクル）や省エネルギー、再生可能エネルギー利用を進めるとともに、福祉サービスを充実し、高齢者や障害のある人が自分らしく暮らし、子どもたちが育った環境に左右されことなく成長できる環境を整備することで、快適で楽しく暮らせる和歌山をめざします。



魅力のある地域を創造する和歌山

人口減少等が進む中、住民自らが主体的に考え、行政と一体となった地域づくりを推進します。また、コンパクトな都市や暮らしやすい中山間地域づくり、交通ネットワークのさらなる充実を進めるとともに、各地域の自然・歴史・文化を固有の魅力として磨き上げるなど、魅力的な地域を創造する和歌山をめざします。

未来に向けた主な取組①～統合型リゾートの誘致～

- 本県は、高野山や熊野古道、温泉、美しい海岸線など魅力ある観光資源が豊富にあるという強みを生かし、和歌山マリーナシティに統合型リゾートの誘致を目指しています。
- 和歌山、大阪に統合型リゾートができれば、相乗効果が生まれ、関西全体の発展が見込まれます。



2025年春頃の開業を目指す

経済波及効果等の試算

来場者数

約**400万**人/年

建設投資額

約**2,800億**円

経済波及効果
(運営等)

約**3,000億**円/年

雇用創出効果
(運営等)

約**2万**人

未来に向けた主な取組②～宇宙ビジネス～

- 現在建設が進められているロケット発射場「スペースポート紀伊」では、2021年度中に1機目のロケットの打ち上げが予定されています。
- 公式見学場の整備等により、打上見学における誘客を進めるとともに、中長期的には、宇宙関連産業の集積に向けて取り組みます。

『日本初』 民間ロケット発射場の誘致

事業内容：超小型衛星の「宇宙宅配便」事業

事業者：スペースワン(株)※

事業地：和歌山県串本町

※株主：キャノン電子(株)、(株)IHIエアロスペース、清水建設(株)、(株)日本政策投資銀行



ロケット打ち上げのイメージ図

(写真提供：スペースワン(株))

今後の予定



経済波及効果は、**10年間で670億円**

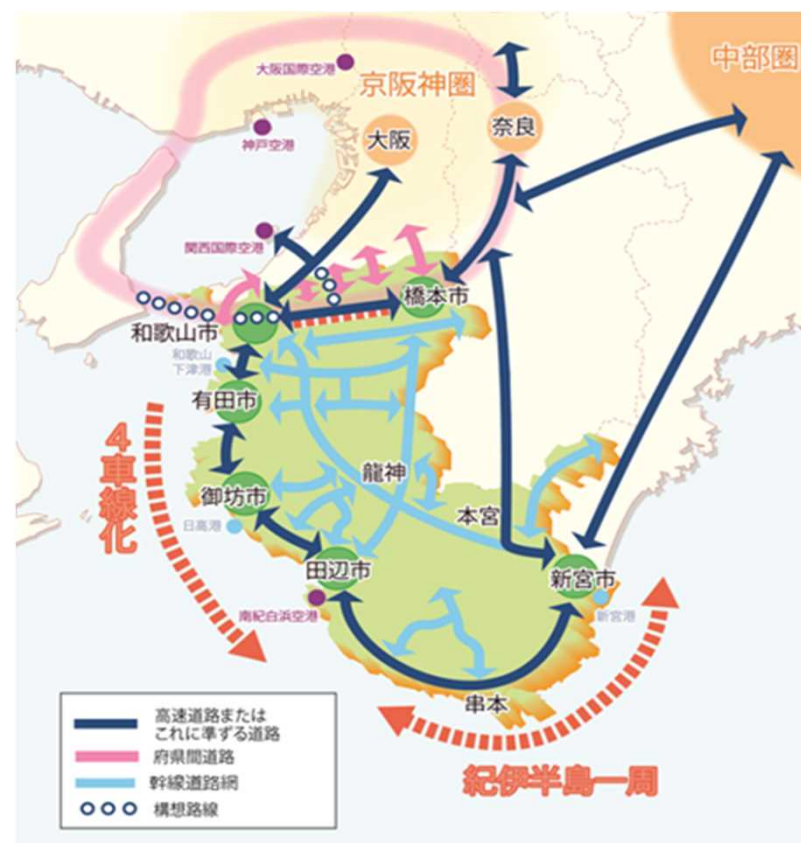
未来に向けた主な取組③～道路ネットワークの整備～

- 企業立地や産業振興、活力ある地域づくりなど将来のチャンスを保障するものとして、また、大規模災害への備えとして、高速道路や県内幹線道路等の早期整備を推進しています。

高速道路ネットワークの整備

- 令和元年度には近畿自動車道紀勢線の未供用区間が全線にわたり事業着手され、念願であった**紀伊半島一周**高速道路の実現に向けた道筋が整いました。
- さらに、活力ある地域発展や、渋滞による経済損失の解消、対面通行による重大事故の防止を図るため、近畿自動車道紀勢線の南紀田辺ICまでの**4車線化**を早期に実現するとともに、南紀田辺IC～南紀白浜IC間と京奈和自動車道についても交通量の増加に合わせて4車線化に取り組みます。

「ひと」「もの」の流れを活性化する交通ネットワーク



未来に向けた主な取組④～自然災害への備え～

■地震による津波に備え、河川・海岸堤防、港湾・漁港施設の整備を推進するとともに、被災後のまちづくりを想定した復興計画の事前策定を支援します。

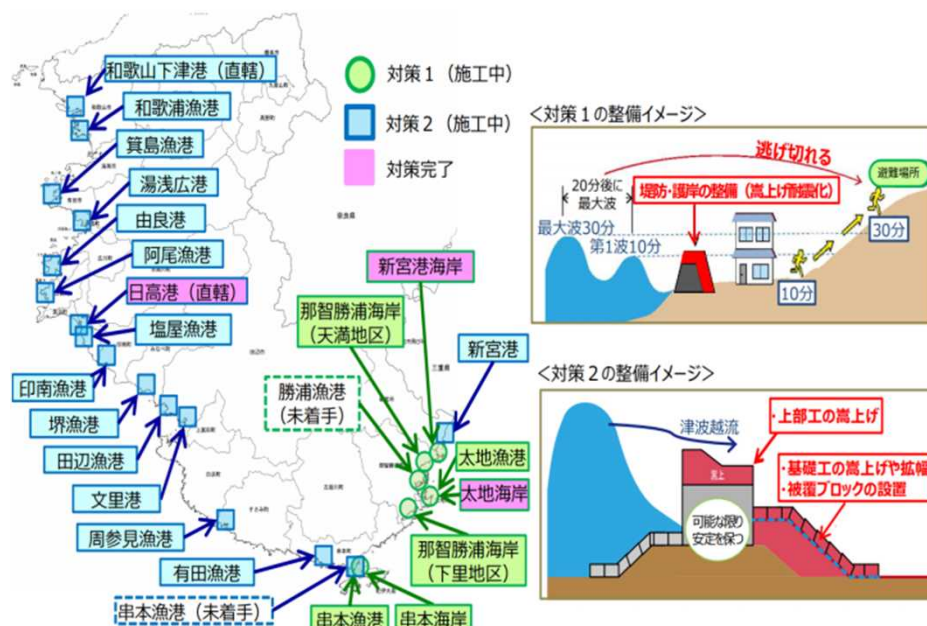
津波から“逃げ切る”ための堤防等の整備

対策1 津波避難困難地域を解消し、

犠牲者ゼロを目指す。

対策2 地域経済の拠点となる施設を強化して、

早期の復旧復興につなげる。



津波災害復興計画の事前策定

被災したまちや

地域の復旧・復興が遅れると

- ・ 県民が再建する気力を喪失、企業活動の停止
- ・ 県内外への移転などにより地域経済が停滞、地域活力が喪失
- 被災を想定した復興計画・体制等の準備に着手することが必要

- 復興計画事前策定の手引きの策定
- 復興計画事前策定支援本部の設置

津波被害を受ける沿岸市町の
計画策定を支援

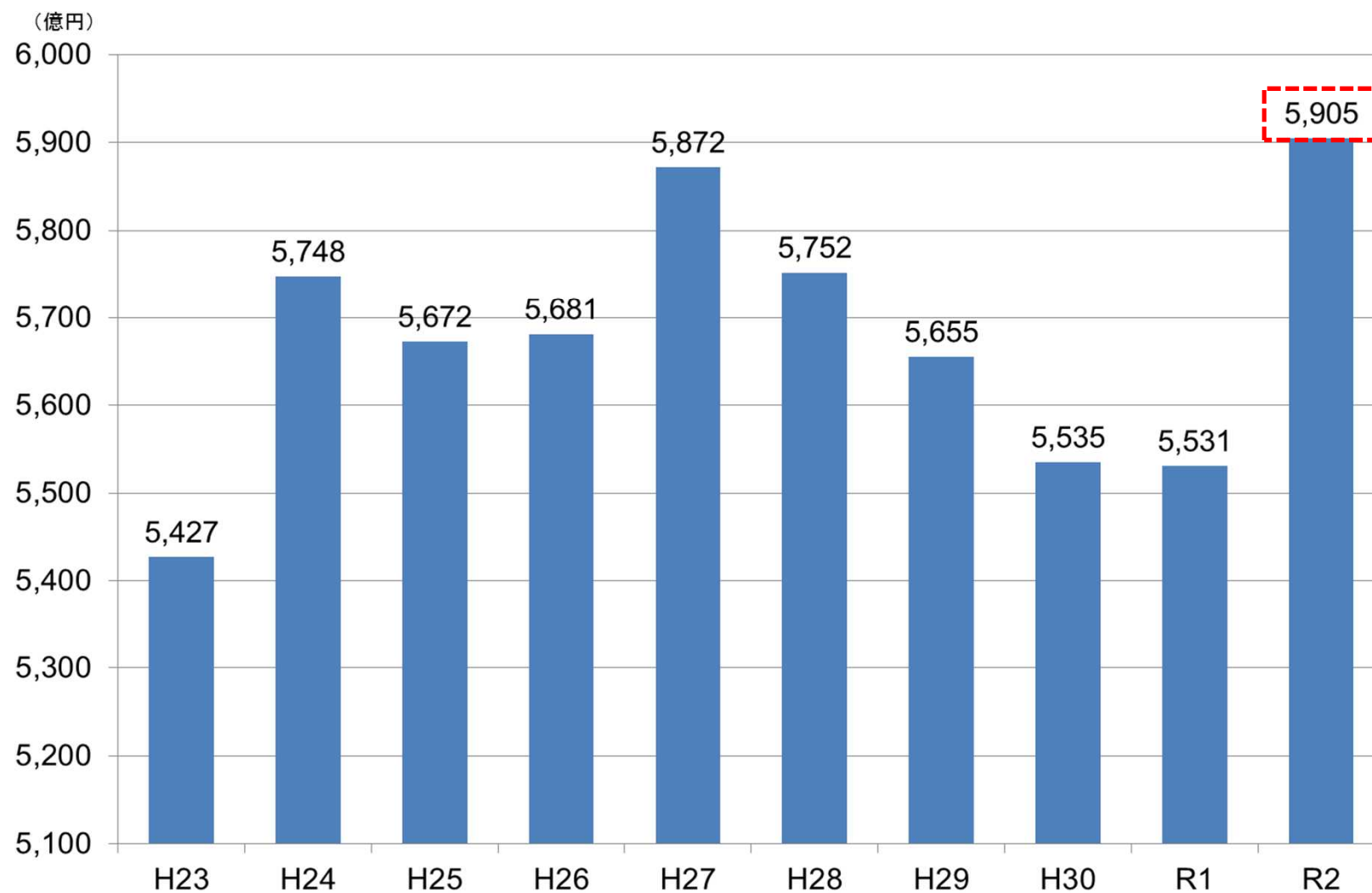
（策定済みの美浜町を除く18市町）

和歌山県の財政状況

3

令和 2 年度当初予算の概要

- 令和 2 年度の一般会計予算の規模は、5,905 億円（対前年度 + 374 億円、+ 6.8 %）
- 過去 10 年で最大の予算規模（歴代 3 位）となりました。

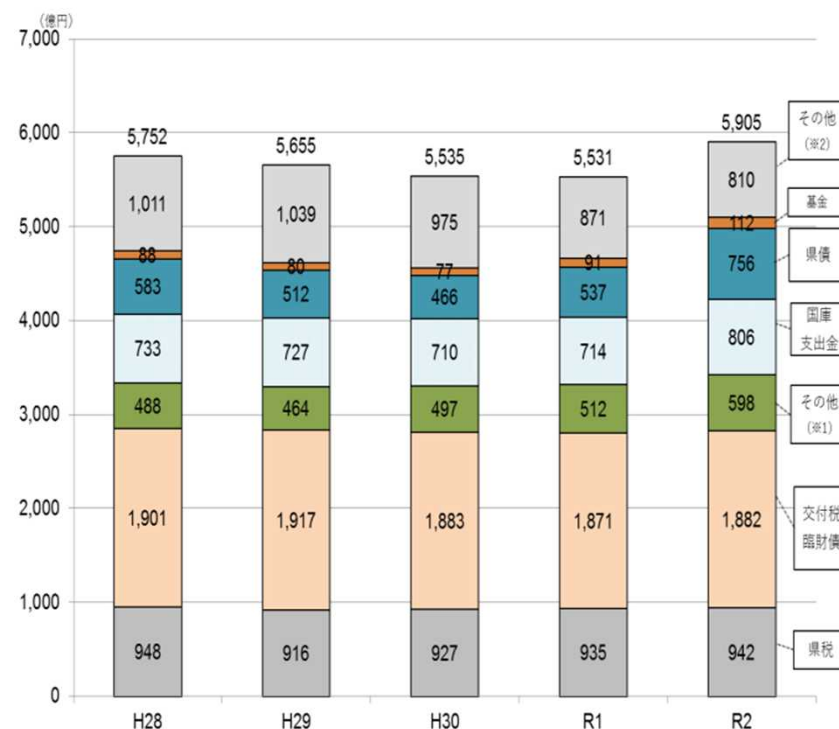


令和2年度当初予算（歳入）の概要

■消費税率の引上げ等の影響により県税収入が増加するとともに、実質的な地方交付税（地方交付税・臨時財政対策債）が増加しました。

		R元当初	R2当初	増減額	増減率
一般財源	県税	935億円	942億円	+7億円	+0.7%
	地方交付税	1,671億円	1,712億円	+41億円	+2.5%
	臨時財政対策債	200億円	170億円	▲30億円	▲15.0%
	その他（※1）	512億円	598億円	+86億円	+16.8%
	小計	3,318億円	3,422億円	+104億円	+3.1%
国庫支出金		714億円	806億円	+92億円	+12.9%
県債（臨財債除き）		537億円	756億円	+219億円	+40.8%
基金繰入金		91億円	112億円	+20億円	+22.4%
その他（※2）		871億円	810億円	▲61億円	▲7.0%
歳入合計		5,531億円	5,905億円	+374億円	+6.8%

項目別歳入の推移（当初予算ベース）



※1：地方消費税清算金、地方譲与税、地方特例交付金

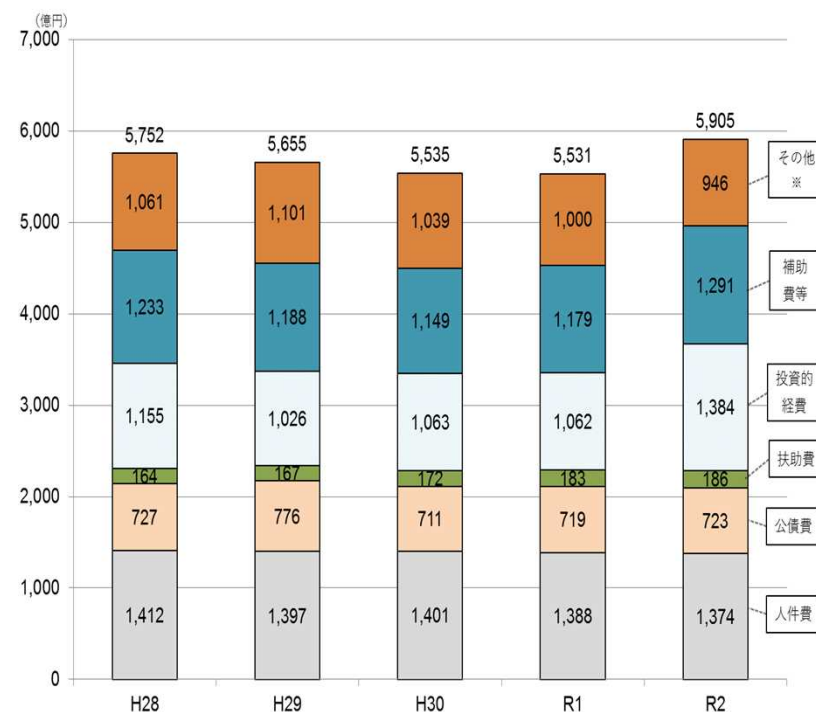
※2：交通安全対策交付金、分担金及び負担金、使用料及び手数料、諸収入など

令和2年度当初予算（歳出）の概要

- 人件費の減少により、義務的経費は減少しました。
- 一方、防災・減災、国土強靱化の推進や、県立医科大学薬学部設置等のため、投資的経費が増加しました。

		R元当初	R2当初	増減額	増減率
義務的経費	人件費	1,388億円	1,374億円	▲13億円	▲1.0%
	公債費	719億円	723億円	+4億円	+0.6%
	扶助費	183億円	186億円	+3億円	+1.6%
	小計	2,290億円	2,284億円	▲6億円	▲0.3%
投資的経費		1,062億円	1,384億円	+322億円	+30.3%
補助費等		1,179億円	1,291億円	+112億円	+9.5%
その他（※）		1,000億円	946億円	▲54億円	▲5.4%
歳出合計		5,531億円	5,905億円	+374億円	+6.8%

性質別歳出の推移（当初予算ベース）



※維持補修費、積立金、貸付金、繰出金など

令和元年度普通会計決算の概要

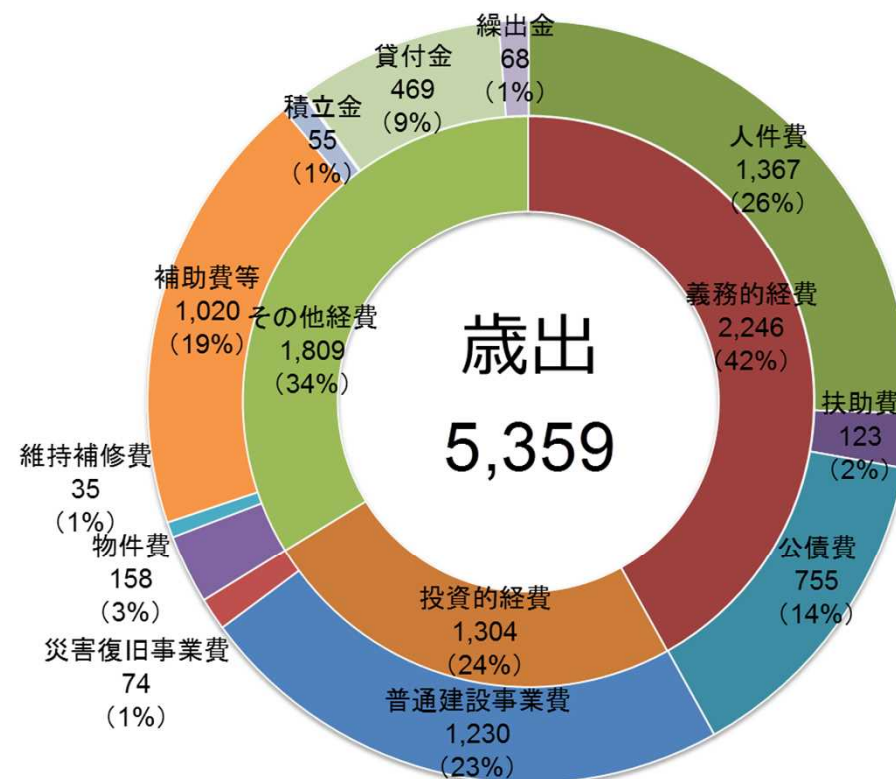
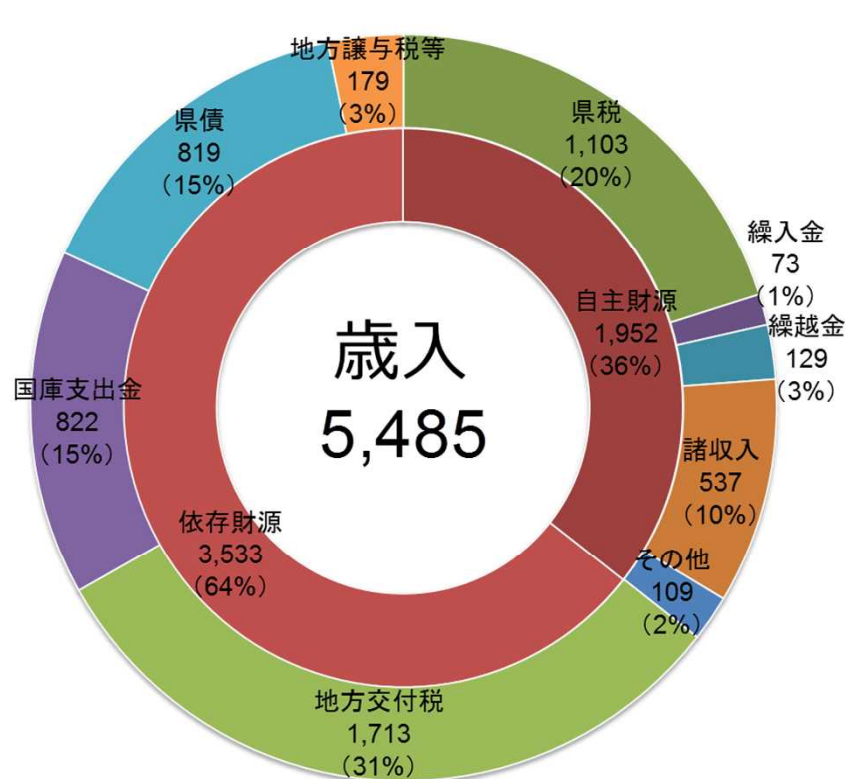
- 決算規模は、歳入・歳出ともに前年度と比べて増加しました。
- 実質収支・実質単年度収支はともに黒字となりました。

項目	平成30年度決算	令和元年度決算	増減
収 支 (億円)			
歳入総額	5,399	5,485	+86
歳出総額	5,270	5,359	+88
歳入歳出差引	129	126	▲ 2
翌年度への繰越財源	94	59	▲ 35
実質収支	35	67	+33
実質単年度収支	5	40	+35
残 高 (億円)			
県債残高【一般会計】	10,183	10,314	+132
うち、臨時財政対策債	3,762	3,728	▲ 34
うち、臨時財政対策債除き	6,421	6,587	+166
基金残高	743	725	▲ 18
うち、財政調整・減債基金	219	209	▲ 10
指 標			
標準財政規模(億円)	2,963	2,937	▲ 26
財政力指数	0.328	0.333	+0.005
経常収支比率 (%)	93.1	94.8	+1.7
健全化判断比率 (%)			
実質赤字比率	—	—	—
連結実質赤字比率	—	—	—
実質公債費比率	7.8	7.5	▲ 0.3
将来負担比率	197.5	203.6	+6.1

令和元年度普通会計決算の概要

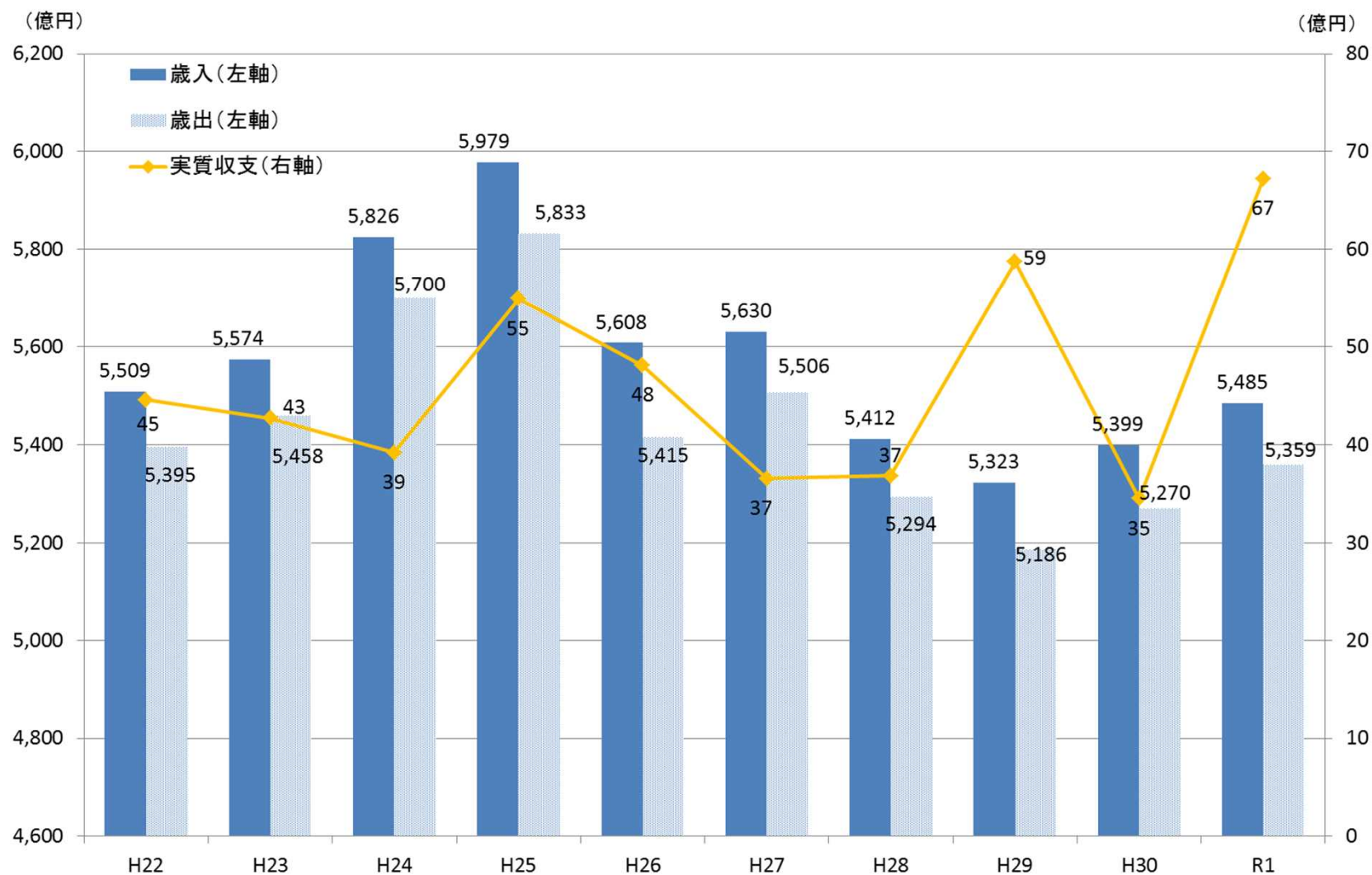
- 決算規模は、歳入5,485億円（対前年度+86億円）、歳出5,359億円（対前年度+88億円）
- 防災・減災、国土強靱化のための緊急対策の推進に伴う投資的経費の増加により歳出が88億円増加しました。また、歳入についても国庫支出金や県債の増加等により86億円増加しました。

単位：億円



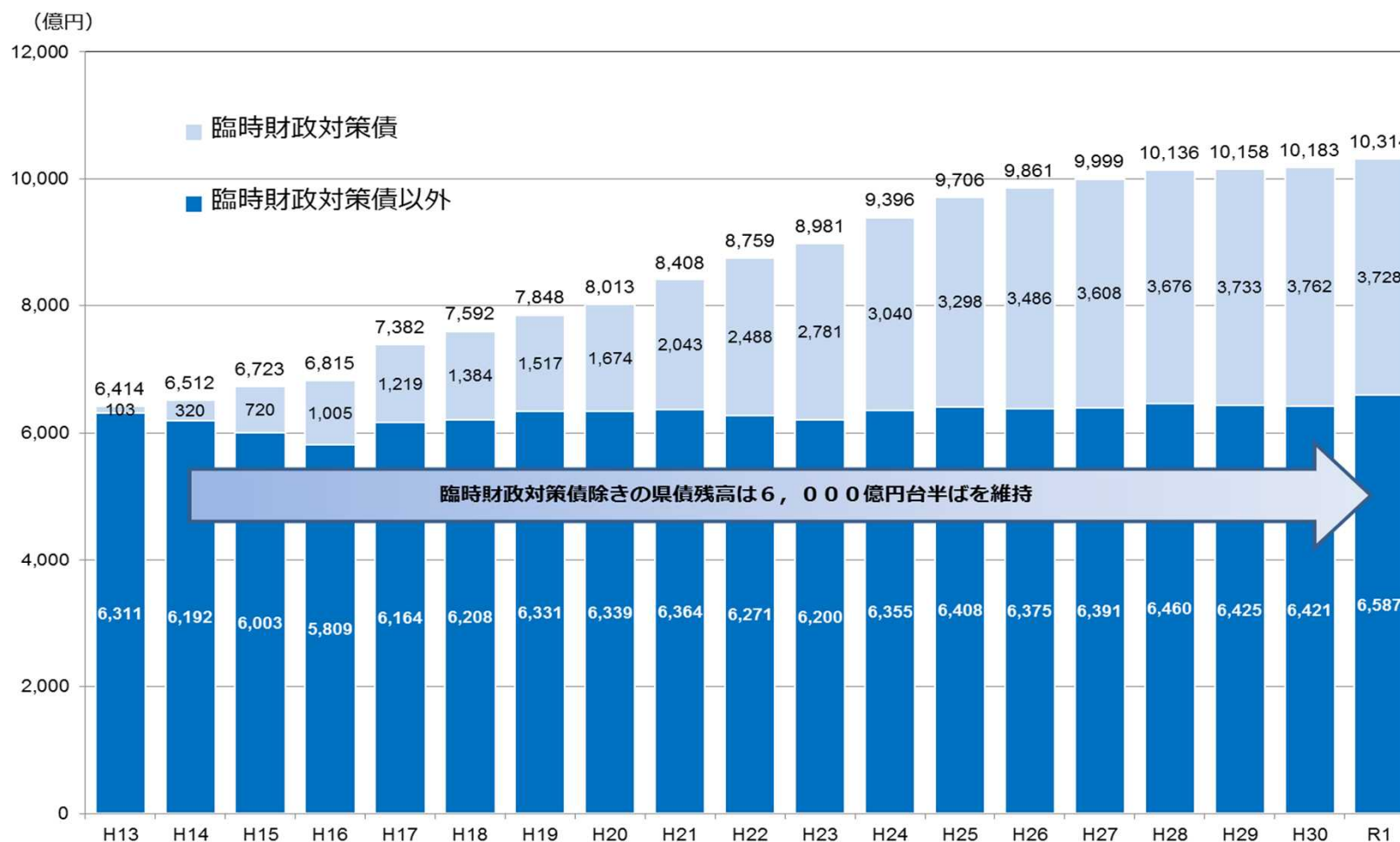
普通会計決算の推移

■令和元年度の実質収支は67億円、実質単年度収支は40億円の黒字となりました。



県債残高の推移（一般会計）

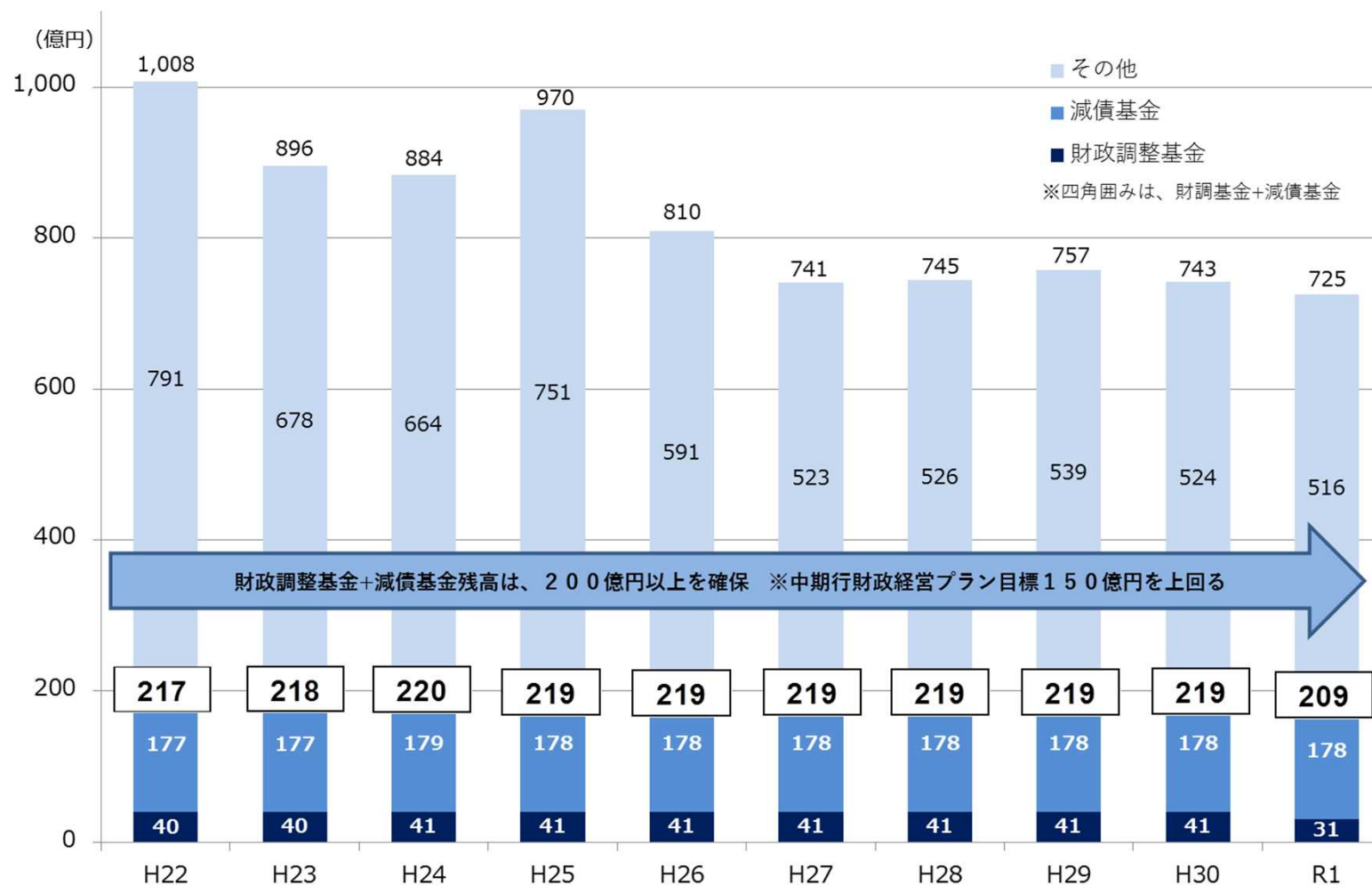
- 一般会計の臨時財政対策債除きの県債残高は、概ね6,000億円台半ばを維持しています。
- 令和元年度末残高（臨財債除き）は、6,587億円（対前年度+166億円）。防災・減災、国土強靱化のための緊急対策に推進等に伴う公共事業の増加に伴い増加しました。



基金残高の推移

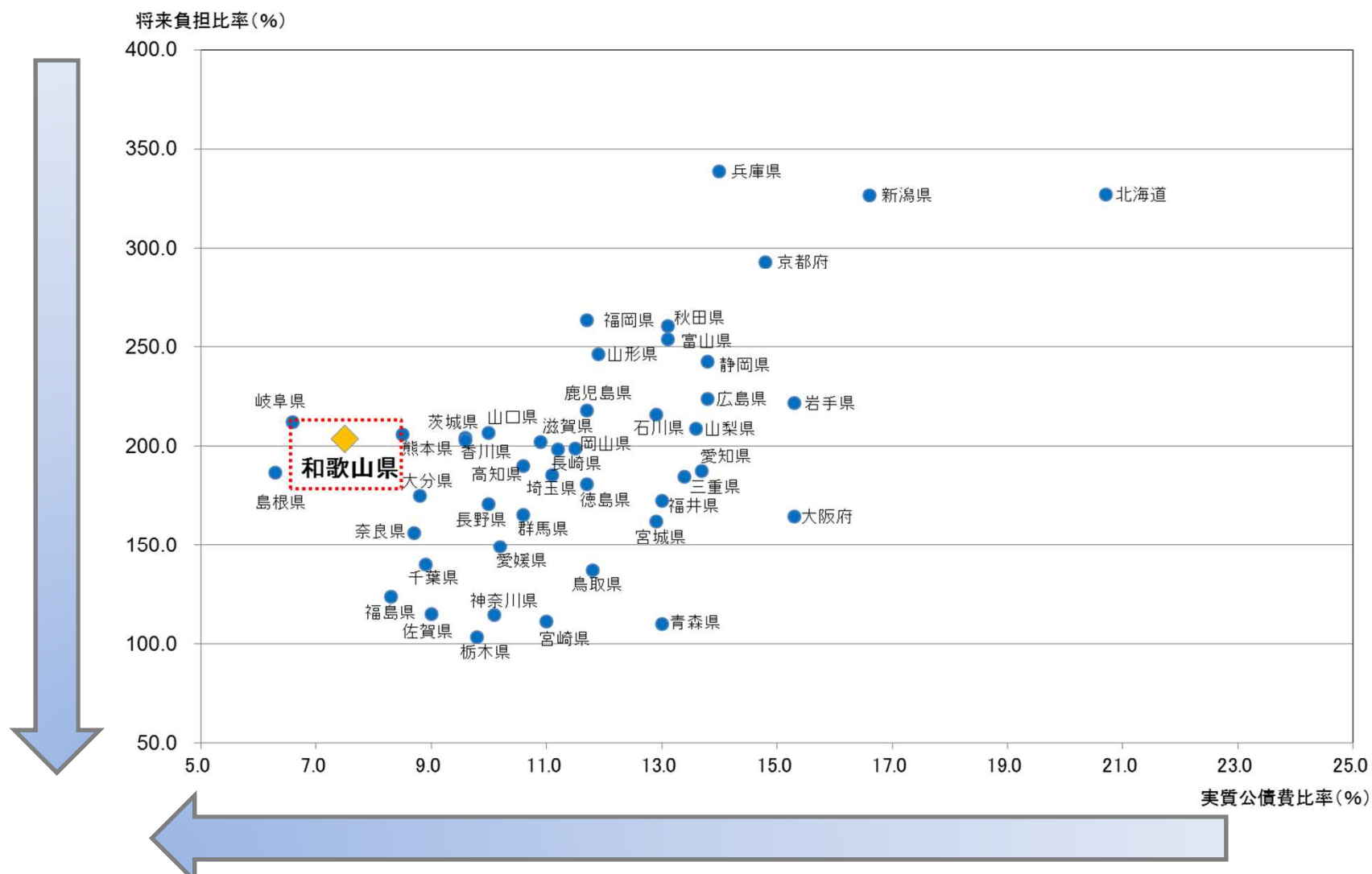
■ 財政調整基金と減債基金の残高合計は、200億円以上で推移し、令和元年度決算においても209億円を確保しました。

■ 中期行財政経営プラン（H29～R3）における残高目標150億円を上回る額を確保しています。



令和元年度健全化判断比率の状況

- 実質公債費比率7.5%（全国4位） 将来負担比率：203.6%（全国29位）
- 全国的にも健全な財政状況を維持しています。



令和元年度公営企業会計（法適用）の決算概要

- 全ての公営企業会計で当年度純利益を計上し、黒字となっています。
- 健全化法上の資金不足比率についても、資金不足は発生していません。

(百万円)

会計	概要	収益的収支			資本的収支			資金不足比率 (健全化法上)
		事業収益	事業費用	収支差引	資本収入	資本費用	収支差引(※)	
病院	こころの医療センター（昭和27年開設）の運営 ・所在地：有田川町 ・設置根拠：精神保健福祉法第19条の7 ・病床数：300床	2,304	2,131	173	339	381	▲ 42	－
工業用水道	紀の川及び有田川を水源として利用し、和歌山市、海南市、有田市の35事業者への工業用水を供給	972	867	105	0	361	▲ 361	－
土地造成	企業誘致推進のため、和歌山市（雑賀崎工業団地、西浜工業団地）、御坊市（日高港工業団地、御坊工業団地）にある企業用地の分譲を推進	636	471	164	0	481	▲ 481	－
流域下水道	紀の川流域の自然環境の保全や生活環境の改善を目的とし、紀の川流域下水道（伊都処理区）及び紀の川中流域下水道（那賀処理区）において流域下水道事業を実施	2,657	2,606	51	1,093	1,078	15	－

※資本的収支の不足額は、内部留保資金等で補てんしています。

全ての会計で黒字

資金不足は発生
していない

財政収支見通し（令和2年度当初予算編成時）

- 令和2年度当初予算をベースとして、内閣府の「中長期の経済財政に関する試算」等により一定の条件を仮定し、伸び率を乗じるなどして機械的に試算。
- 令和3年度末においても、中長期行財政経営プランに掲げる目標である財調・減債基金残高150億円を上回る額を確保できる見込みです。

（単位：億円）

	平成29年度 当初予算額	平成30年度 当初予算額	令和元年度 当初予算額	令和2年度 当初予算額	令和3年度 見込額	【参 考】 中期行財政経営プラン 策定時（平成29年3月） 令和3年度 見込額
歳 出 （A）	5,655	5,535	5,531	5,905	5,666	5,735
人 件 費	1,397	1,401	1,388	1,374	1,341	1,299
経常人件費	1,209	1,209	1,198	1,192	1,187	1,143
退職手当	149	151	146	132	103	117
公 債 費	776	711	719	723	748	817
投資的経費	1,026	1,063	1,062	1,384	1,134	1,031
その他支出	2,456	2,361	2,362	2,423	2,443	2,588
社会保障関係経費	603	609	629	641	663	696
歳 入 （B）	5,582	5,447	5,432	5,830	5,575	5,653
県 税	916	927	935	942	960	1,106
地方交付税・臨時財政対策債	1,917	1,883	1,871	1,882	1,878	1,943
国庫支出金	727	710	714	806	713	690
県債（臨財債・退手債・行革債を除く）	439	388	447	681	531	419
その他収入	1,583	1,539	1,465	1,519	1,493	1,495
退手債・行革債 発行前の収支不足額（A-B） 【1】	73	88	99	75	91	82
退手債 発行予定額 【2】	36	38	37	23	0	11
行革債 発行予定額 【3】	37	40	53	52	74	46
最終収支不足額 【1-2-3】	0	10	9	0	17	24
財調・県債基金 年度末残高（見込）※	219	219	210	210	193	153

※財調、県債基金の平成29・30年度残高は決算、令和元年度残高は2月補正後

（注）上記財政収支見通しは、令和2年度当初予算編成時点で判明していた状況を基に試算し、令和2年2月に公表したものである。
なお、国の財政運営の動向や今後の経済情勢などにより大幅に変わりうる。

令和2年度補正予算の状況（9月補正時点）

- 令和2年度補正予算では、9月補正予算までに976億円の増額補正を行い、うち新型コロナウイルス感染症対応として、848億円を増額補正しています。
- これらの財源については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等の国庫支出金を活用しており、財政調整基金の取崩しは3億円の留まっています。
- 財政調整基金＋減債基金の残高合計は、令和2年度末で206億円を確保できる見込みです。

（億円）

令和2年補正予算	当初補正	4月補正	5月補正	6月補正	9月補正	合計
補正額（歳出）	2	114	38	412	409	976
うち新型コロナウイルス感染症対応	2	114	38	412	281	848
補正額（歳入）	2	114	38	412	409	976
国庫支出金 （コロナ臨時交付金含む）	1	51	38	359	266	715
地方交付税	-	-	-	-	6	6
その他	-	62	-	52	137	252
財政調整基金取崩し	1	1	-	1	-	3

霧にかすむ那智大滝（きりにかすむなちおおたき）

落差日本一の那智大滝と三重塔の遠望は那智山で一番の絶景。季節や時間、気象によってさまざまな表情を見せます。とりわけ霧が立ち込めた日は熊野らしい神秘的な光景に触れることができます。

市場公募債発行計画

4

市場公募債の発行計画

- 和歌山県では、令和2年度から、資金調達手段の多様化のため、市場公募債の発行を開始します。
- 来年度以降も、年1回の発行を視野に継続的に発行していく予定です。

発行額 100億円

年 限 10年（満期一括償還）

条件決定日 令和2年11月11日（水）

発行日 令和2年11月30日（月）

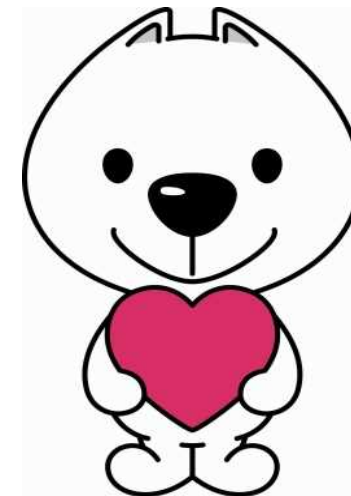
令和2年度シンジケート団構成

金融機関名		シェア（%）	幹事
銀行団	株式会社紀陽銀行	23.0	代表幹事
	株式会社みずほ銀行	22.0	副幹事
	きのくに信用金庫	3.0	
	株式会社三井住友銀行	1.0	
	株式会社三菱UFJ銀行	1.0	
		50.0	
証券団	野村證券株式会社	9.0	証券幹事
	SMBC日興証券株式会社	9.0	
	大和証券株式会社	9.0	
	みずほ証券株式会社	9.0	
	三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	9.0	
	岡三証券株式会社	2.0	
	東海東京証券株式会社	2.0	
	岩井コスモ証券株式会社	1.0	
小 計		50.0	
合 計		100.0	

問い合わせ先

和歌山県 総務部 総務管理局 財政課 企画調整班
〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

電 話 : 073-441-2161
F A X : 073-422-8384
E-mail : e0104001@pref.wakayama.lg.jp



和歌山県PRキャラクター「きいちゃん」

財政・県債に関する情報

和歌山県ホームページ

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/010400/index.html>

【MEMO】

